1995年9月2日

北白川廃寺塔跡発掘調査現地説明会資料

財団法人京都市埋蔵文化財研究所

＜所 在 地＞　京都市左京区北白川東瀬ノ内町50-1

＜調査期間＞　1995年５月11日から継続中

＜調査面積＞　約330㎡

塔跡の調査

北白川廃寺は、昭和９年にこの付近で行われた区画整理の工事中に発見された寺院跡で、地名をとって北白川廃寺と言われています。その発見の際に、発掘調査が実施され白鳳時代の瓦積み基壇（東方建物跡）などの遺構が明らかになりました。その後昭和49年になって、今回実施したＡ区の東側で行われた土木工事の際に瓦が発見され、それに伴って緊急の調査が行われましたが、明確な建物遺構は検出されませんでした。そして昭和50年に２回の発掘調査が実施され、基壇の南東角（１次）と南西角や階段の一部（２次）が発見され、この遺構が心礎を伴う正方形建物、つまり白鳳時代の塔跡であることが明らかになりました。また、塔の基壇化粧は創建当初は瓦積み基壇でしたが、後に乱石積み基壇に変わっていることも確認されました。

今回の調査成果

今回の調査は、塔跡の外周および先の調査で確認した塔基壇の再調査を目的に実施しました。現在までに、次のような成果が得られました。

《乱石積み基壇》

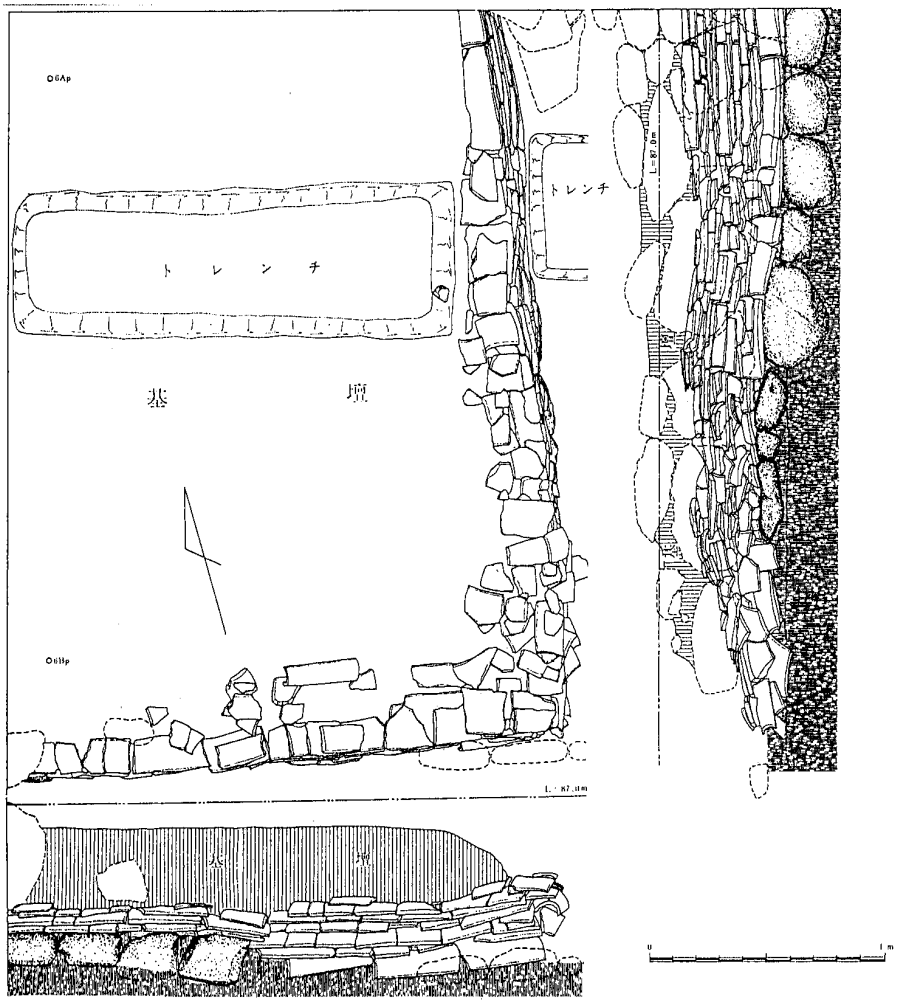
１、基壇規模は一辺14mを測りますが、高さについては、後世の削平により明らかではありません。

２、基壇の南辺と北辺には基壇と同様の自然石を用いて階段を設けています。階段の出は、120cmほどあります。

３、基壇中央の窪みは、塔心礎が据え付けられていた痕跡と考えています。しかしながら、塔心礎はいつの頃か分かりませんが抜き取られたものと推定しています。

《瓦積み基壇》

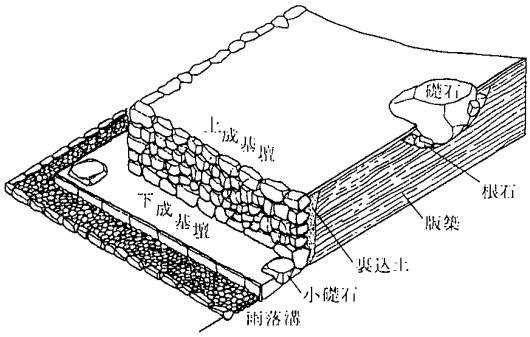
瓦積み基壇は平瓦や丸瓦を使って構築していますが、今は石積み基壇によって覆われておりその姿を見ることができません。そのため、詳しいことは今後の調査を待たなければなりません。なお、創建時の塔心礎の有無につきましては、調査の最終段階に基壇を断ち割って確認したいと考えております。



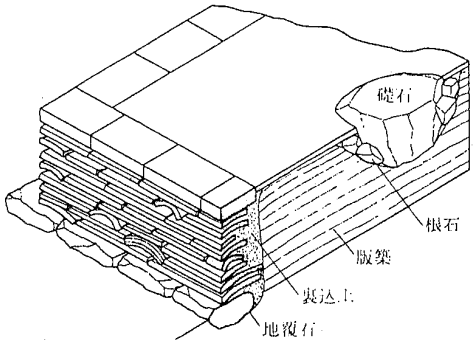
北白川廃寺塔跡瓦積基壇南東部（1975年調査）

三上貞二・山口　博「北白川廃寺塔跡第１次発掘調査概要」『北白川廃寺塔跡発掘調査報告』
北白川廃寺発掘調査団　1976年

参考基壇模式図

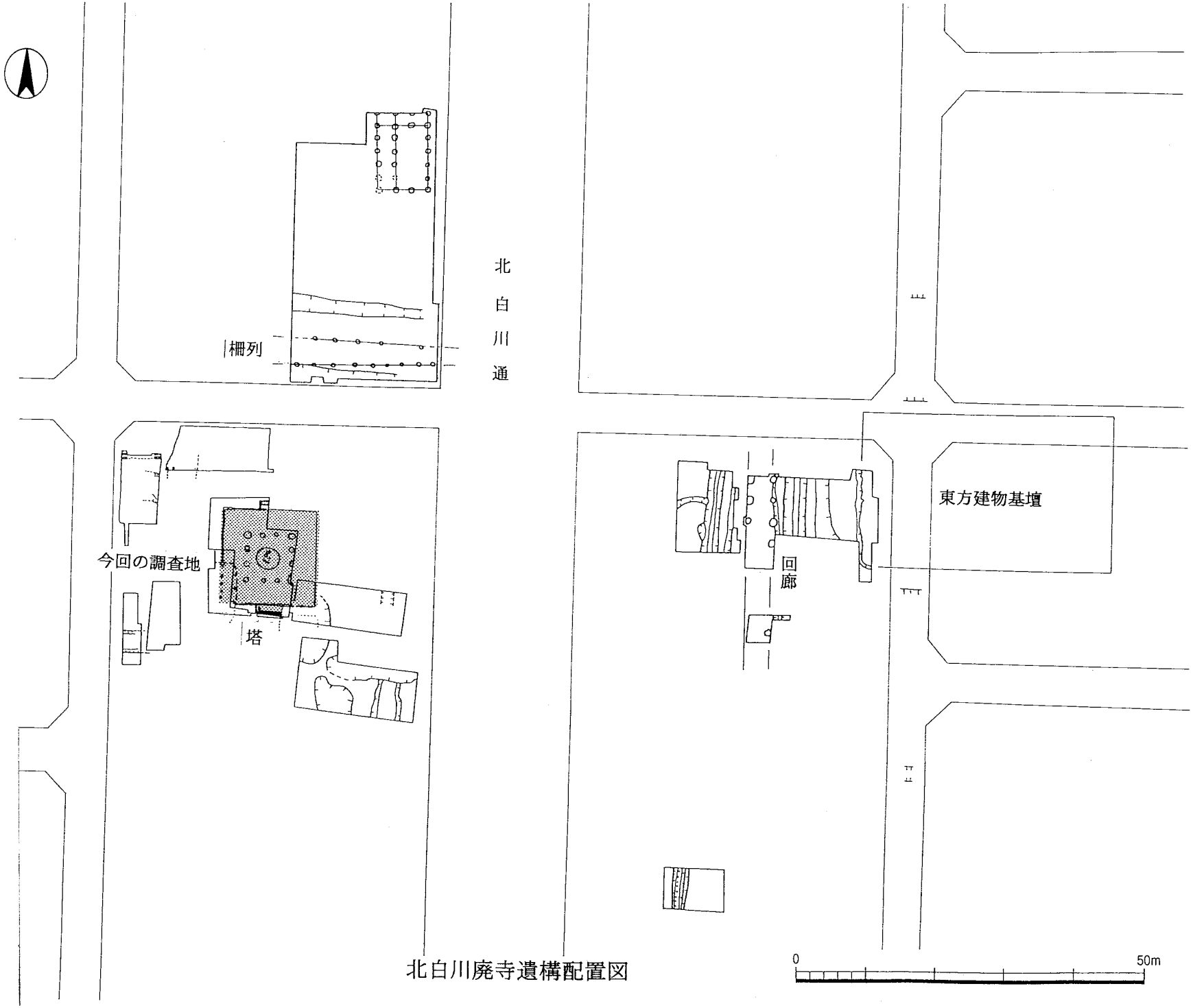


乱石積重成基壇

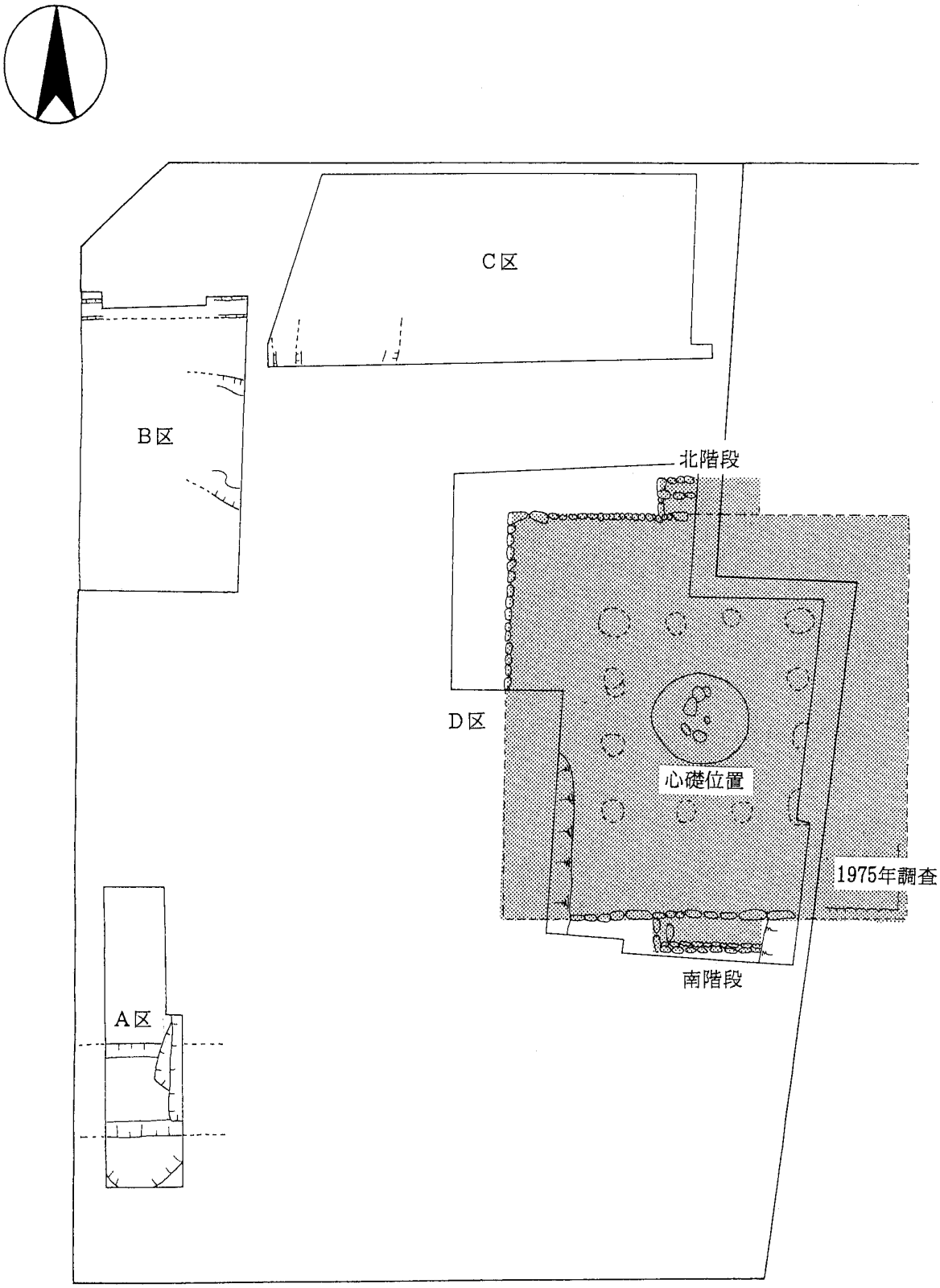


瓦積基壇

『古代日本を発掘する』２巻　岩波書店　1991年



北白川廃寺遺構配置図



今回の調査区　　S＝1／200